

京都リユース推進フォーラム「ファストフードが脱・使い捨て?!」報告

日時 2009年3月28日(土)14時~16時半

会場 ウィングス京都(京都市男女共同参画センター)セミナー室B

プログラム *文中敬称略

【開会】 1. 司会者(北添春菜/FoE 京都)より本日のプログラムと配布資料についての説明

2. 主催者あいさつ: 杉谷保憲(FoE 京都代表)

【はじめに】 「なぜ、ファストフードの脱?使い捨て」瀬口亮子(FoE Japan)

(1) FoE ならびに FoE Japan の活動紹介

(2) FoE Japan の脱・使い捨て社会プロジェクトのコンセプト説明

(3) ファストフード、コーヒーショップチェーンの脱・使い捨て活動の取り組み紹介

開始目的、活動経緯の紹介

韓国の自主協定による脱・使い捨てに関する事例紹介

韓国の廃棄物抑制関連法と自主協定、リユース容器使用の徹底ぶりについて

スターバックスキャンペーン事例紹介

地域自主協定によるファストフード・コーヒーショップチェーンの脱・使い捨てのコンセプト説明、その具体例としての「むさしのリユース推進キャンペーン」の紹介

今後の展開 脱・使い捨て社会をめざして 「店内ならリユースがあたりまえ」な国にしよう!

【第1部】「京都のファストフード店内調査報告と分析」福嶋、中嶋(FoE 京都)

(1) 京都リユース推進プロジェクト 「京都に使い捨ては似合わない。歴史文化観光都市京都ではリユース容器で美味しく飲み物を楽しみたい」をモットーに、京都にファストフード、コーヒーショップチェーンにおける使い捨て容器の使用削減を促進し、その事例を他の地域と共有し、地域から業界全体の3Rの実践を目指す

(2) 京都市内の店舗調査報告 京都市内のファストフード、コーヒーショップチェーンについて容器使用状況を調査(期間:2008.11~2009.3 調査数:のべ100店舗)。調査方法は目視、注文、ヒアリング等。

多くは店内でも使い捨て容器の使用が多いが、コーヒーショップチェーンを中心に店内ではリユース容器を使用している店舗も見受けられる

店内でのリユースについては声かけ、掲示によってリユースを促している店舗があるが、特に声かけは有効かつ必要(客の側からはリユース容器の使用は言い出し

にくい、年配者にはリユース容器が歓迎される等)

少数意見として、なぜ使い捨てがなくならないかを考える必要がある。

使い捨てのメリットとしては洗浄の必要がなく水道と労働力を軽減でき、衛生面からも望ましい場合がある。脱・使い捨てを目指す上で、これらを踏まえた上でリユース容器を使用する動機づけ(マグカップがかわいい、年配者にはリユースでの提供が望まれる等)を再確認する必要があるとも考える

【第2部】パネルディスカッション

「どうしたら進む?!ファストフードチェーンの脱・使い捨て」

(パネリスト)

上木康弘(株式会社ダスキン フードサービスグループ品質保証部)

浅利美鈴(京都大学環境保全センター助教・工学博士)

吉田明子(FoE Japan 脱・使い捨てプロジェクト担当)

上田秀樹(京都市環境局循環型社会推進部)

齊藤友宣(NPO法人 木野環境)

進行:瀬口亮子(FoE Japan)

1. パネリスト紹介:瀬口(FoE Japan)

2. 発表(上木/ダスキン)

(1) ミスタードーナツにおける環境面での取り組み

食用廃油を回収し飼料、肥料、石炭などにリサイクル

ドーナツを家畜飼料にリサイクル

(2) リユース容器の使用について

使い捨て容器をなくし、陶器やガラス食器にシフトすることでゴミを大幅削減

食器の破損による商品への硬質異物の混入が問題であるが、ダスキンラバーマットの導入で什器や備品の破損が減少

環境よりも顧客の安全を優先せざるを得ない側面は否めない

3. 発表(浅利/京都大学)

(1) リユース容器の使用をライフサイクルアセスメント(LCA)の手法で分析

(2) ライフサイクルアセスメント(LCA)とは?

製品の「ゆりかごから墓場まで」の環境負荷を定量的に、また様々な種類の環境問題への影響を総合的に評価

(3) LCAの手法でリユース容器を検証すれば、使用回数が多く回収率が高いほどワンウェイ=使い捨て容器より環境負荷が小さくなる。用水や水質の観点からはワンウェイが優位(洗浄の必要なし)

(4) リユース容器を環境面でより効果的に活用するには、容器を規格化し、輸送のプロセスや洗浄システムの環境負荷を把握することも重要

4. 発表（吉田 / FoE Japan）

(1) リユース容器に変えた！「むさしのリユース推進キャンペーン」の経験から

(2) 「むさしのリユース推進キャンペーン」とは？

2008年度環境省エコ・コミュニティ事業

武蔵野市内のファストフード、コーヒーショップチェーンにおけるリユース容器の使用促進。地域全体でのごみ削減と資源有効活用の継続的な取り組みへ

(3) その成果

いくつかの店舗でリユース容器の使用量や頻度が増加

「もったいないリーダー」の活躍

リユース容器使用で Win-Win-Win（お店 = 資材費とごみ処理費削減、消費者 = リユースの食器で美味しく、自治体 = 資源の節約とごみ削減）

(4) 関連して「スターバックスコーヒー京阪京橋モール店」の事例紹介

使い捨て容器が基本。客からの申し出でリユース（マグカップ）OK。

最近マグの希望者が増えてはいるがまだまだ少数

店側からの声かけは来客数、マグの数、準備を考えれば困難

5. 発表（上田 / 京都市環境局）

(1) 有料ごみ袋の導入やプラスチックごみの分別などを通じ、市民のコスト意識やごみ減量の意識が高まっている。それを反映して京都市におけるごみは減少している。

(2) 事業系ごみの減量強化を促進する面からもファストフードやコーヒーショップチェーンでのリユース容器使用が増えることは望ましい。

6. 発表（齊藤 / 木野環境）

(1) 木野環境の紹介

(2) 消費者はものぐさ？ワンウェイ、リユースに関係なく価格（の安さ）にのみにこだわる傾向がある

(3) ペットボトルのリユースの可能性に取り組む必要もあると考える

7. ディスカッション

(1) 会場からのコメントの紹介（紙に書かれたものを掲示）

(2) 質疑応答

ミスタードーナツでは、ドーナツを飼料にリサイクルしているようだが成分的に問題はないのか

（上木）ドーナツだけのリサイクルであるので飼料の成分はクリアしている
家庭廃油を企業や自治体で回収、リサイクルする活動は行っているか

（上木）油の成分が変わってくると回収方法も使用用途も変わってくるので

不可能

(上田)京都市では植物性油のみ回収している

(3) 総括

(上木)ファストフードといってもひとくくりに出来ない面がある。業態によって対応が違って来るし、その特性によって(リユースが徹底)出来ない場合もある。

(リユース推進活動も)そのあたりを理解した上で展開してほしい

(浅利)もっとフロアからの声を聞きたかった。リユース容器の使用については店舗の側からの声かけとインフラ整備が重要であることがわかった。ショップの店員の方には「もったいないリーダー」を目指して頂きたい

(上田)ごみが発生しないしくみ作りを推進するためには市民、業者、行政の連携が重要

(齊藤)店舗におけるマグカップなどリユース容器の使用についての声かけは積極的
に。一人ひとりの声かけも、それが重なれば企業の方針を変えることもありうる。

(吉田)消費者が積極的に企業に声をかけることで意識を変えていくことが大切

以上